

英語語彙におけるゲルマン系二重語(1)

安達 一美

(武庫川女子大学文学部英米文学科)

Germanic Doublets in the English Vocabulary(1)

Kazumi Adachi

Department of English, School of Letters,
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663, Japan

Abstract

Doublets are defined as the words that are cognates but different in form and/or in current meanings. English doublets can be categorized into Italic-, Germanic-, Greek- and Eastern-derived doublets by their etymological sources. This series aims first to sub-categorize, according to the process of their borrowings, the Germanic doublets selected from Allen's list of English doublets, and second to present categorically the processes of their borrowings into English. This paper, as its part 1, focuses on the Germanic doublets borrowed from/through Germanic languages such as Old Norse, Dutch, German and Danish, and other languages such as French and Latin.

1 序

英語はゲルマン語起源の言語であるが、様々な言語との接触によって多くの語彙を借入し、比類なき豊かな語彙をもつ言語となった。借入には幾つかの様態があるが、同一語源の語を、借入時期を異にして数回にわたって借入したり、異なる幾つかの言語を経由して借入したものもある。その結果、同一語源の語から、異なった形態や異なった意味をもつ語が生じた。これらは二重語と呼ばれている。また、他言語からの借入でなくても、古英語内でも二重語が生じることがあった。それは、古英語が一言語として均一で確立されたものではなく、複数の部族がイングランドに移住してそれぞれの方言を発達させたためである。

二重語の知識は、当該語彙の中核的語義を明らかにし、語彙の理解をより確かで深みや幅のあるものにしてくれる。しかし、英語学習辞典で二重語を記載しているものはほとんどなく、大辞典でも全ての辞書が二重語を記載しているわけではない。また、記載されている辞書を比較検討してみると、必ずしも二重語認定が一致しているわけではないし、同一辞書においても認定基準の不統一が散見される²⁾。そこで、本論文は、より明確に二重語を認定するための資料を提供することを目的に、既稿のイタリック系二重語の検証及び分類³⁾につづき、英語語彙におけるゲルマン系二重語に焦点をあて、それぞれの二重語の語源や借入経路を検証し、借入経路をもとに分類してそのリストを提示することにした。

Skeatは、*Etymological Dictionary of the English Language*のAppendixにおいて644組の二重語のリスト⁴⁾を掲載したが、Edward E. Allenは、Skeatのリストを検証し直し、さらに新たなものを追加して922組の二重語リストを論文⁵⁾で発表した。本論文では、この修正追加されたAllenのリストをもとに二重語の検証及び分類をおこなう。しかし、Allenのリストには今や廃語になった語やあまりに使用頻度の低い語も含まれているので、日本人学生の英語語彙の理解という視点から『ジーニアス英和辞典』のEランク(約45000語レベル)以上の語彙を省き、ゲルマン祖語に由来する136組の二重語を選び検証及び分類の対象とする。

検証にあたっては、語源情報とともに二重語であることを記載している Klein と Barnhart の語源辞典⁶⁾、および研究社版『新英和大辞典』(5版)の三つの辞書を主に用いる。取り上げた136組のうち、Klein が認定しているもの17組、Barnhart は8組、研究社は13組である。三辞書のうち一つ以上の辞書が認定しているものは23組、三辞書のすべてが認定しているもの5組、Klein と研究社が認定しているもの5組、Klein と Barnhart は1組、Barnhart と研究社は1組、Klein のみが認定しているもの6組、Barnhart のみ1組、研究社のみ3組である。

ゲルマン系二重語を特定するためにはゲルマン祖語まで辿らなければならない。しかし、イタリック系二重語などとは異なり、ゲルマン祖語は再構築言語であるため二重語の認定には困難が伴う。そのことが、三つの辞書間の語源情報の違いや二重語の認定のずれの要因となっているように思われる。研究社は語源情報としてゲルマン祖語まで遡っている。しかし、Klein にはゲルマン祖語の言及がなく同系語(*related*)の記述に止まっており、また Barnhart においてもゲルマン祖語の情報は十分でないため、これらの辞書の二重語の認定基準がわかりにくい。そこで、ゲルマン祖語の情報を得るため、*The American Heritage Dictionary of Indo-European Roots* と *OED* を利用する。殊に、ゲルマン祖語の情報が系統的に提示されている前者を使用して、各二重語の語源であるゲルマン祖語を特定することにする。

検証の結果、136組中78組がゲルマン系二重語と認定できる。そして、それらのゲルマン系二重語をその経路から次のように二つに分類する。すなわち、A)他言語の経由で生じた二重語、B)いずれもが古英語内で生じた二重語である。また、前者はさらに下位区分として i)二重語のいずれもが他言語を経由しているもの、ii)二重語のうち一語が他言語の経由であり他方が古英語からのもの、に分けることにする。三重語は別分類とする。

2 ゲルマン系二重語の経路による分類

ゲルマン語派は、高低アクセントの印欧祖語から分かれて強勢アクセントへ変化した。母音においては、他の派生語派に比べるとより長短の対立を保ちながらも、無強勢母音が弱音化した。また、子音においては、第一子音推移(グリムの法則)と呼ばれる閉鎖音の再編成により印欧語にはなかった新しい閉鎖音と摩擦音が確立した。そして、さらに子音推移(ヴェルネルの法則)が進み、無声摩擦音に変化が生じ、他の印欧語派と異なる言語へと発達していった。ゲルマン語派は、紀元前3世紀頃から方言的な差異が生じて紀元100年頃には、ゴート語の東ゲルマン語と、北欧の諸言語の基となる北ゲルマン語、そして英語・ドイツ語・オランダ語などの基となる西ゲルマン語に分かれるようになった。西ゲルマン語では、ゲルマン祖語の[u]から短母音[o]が生まれ、祖語の[æ:]から[a:]が生まれ、また、子音の[z]から[r]への変化によって[z]を失ったが、その他は概ねゲルマン祖語の音韻組織を受け継いだ。紀元4世紀から7世紀にかけて、第二子音推移(高地ドイツ語音推移)とよばれる子音変化が高地ドイツ地方に起こり、西ゲルマン語は高地ドイツ語(High German: HG)と低地ドイツ語(Low German: LG)に分かれた。そして、低地ドイツ語がさらに古低地フランコニア語、古サクソン語、アングロ・フリジア語に分かれ、高地ドイツ語は古高地ドイツ語になった。

英語の歴史は、低地ドイツ語のアングロ・フリジア語を話すゲルマン人(Angles, Saxons, Jutes)が5世紀半ばに大挙してブリテン島へ侵入したことに始まる。ブリテン島移住前の Angles, Saxons, Jutes が使用していた言語は、語彙を除いては言語的な差異は少なかったが、移住後それぞれの定住した地域で独自の方言を発達させた。つまり、古英語(Old English: OE)は、Angles が定住したイングランド中部のマーシャ方言及び北部地方のノーサンブリア方言、Saxons が定住したイングランド南西部の西サクソン方言、Jutes の定住したケント地方のケント方言に分かれるが、この方言的な差異はまさに移住民族の定住地の境界と深くかかわったものであった。

A) 他言語の経由で生じた二重語

8世紀に始まるヴァイキング時代に、北ゲルマン語の古ノルド語(Old Norse: ON)からの語彙の借入

によって、古英語語彙のもっていたゲルマン語的要素がさらに強められた。787年にデーン人のリンディスファーン襲撃に始まり、イングランドを蹂躪したヴァイキングたちは、878年のウェドモアの協定によって、デーンロー施行地への定住が認められた。そして、980年にはヴァイキングの全イングランドへの侵入が再開され、1016年のデーン人の大勝利の後デンマーク王クヌートがイギリスの王位につき1042年までデーン人による王位継承が続いた。

北ゲルマン語のONと西ゲルマン語のOEの言語的差異は大きくはなく、語彙の相互借入が促進されたと思われる。1150年頃までのONからの借入語は航海・軍事・法律用語や一部の日常語であったが、中英語期には借入がふえ、あらゆる分野の語彙に及んだ。ノルド基語はゲルマン語系の中でもゲルマン祖語に最も近かったと推測されているが、6世紀以降に第一アクセントの語頭への移動に伴う音韻変化によって、語尾音節の弱化、語末母音の消失または長音の短音化、終音[n]や語頭音[j][w]の消失、そして子音の同化などの変化が生じた。

西ゲルマン語の変化を反映したOEが、北ゲルマン語の変化を反映したONを借入したことで、多くの二重語を生じさせることになった。例えば、ONはゲルマン祖語の軟口蓋無声閉鎖音[k]を保持したが、OEでは、低地ドイツ語であった4~5世紀の初め頃の大陸時代から、前母音の影響で[k]音の口蓋化がはじまり硬口蓋無声閉鎖音[c]音が生じ、さらに擦音化を受けて、[c]が硬口蓋歯茎無声破擦音[tʃ]へと変化する。この変化は、語頭では常に生じ、また語中では母音の前、語末では前母音の[i]と[i:]やウムラウトを受けた母音の後位置で生じた。この音韻的差異による二重語に break/bleach や, fleck/flitch などがある。Break と fleck はON 経由で, bleach と flitch がOE 経由である。また, [k]が口蓋化するのと同じ環境で, 語頭の[sk]は9世紀ごろから前母音や二重母音の前で口蓋化して[sc]を生じ, さらに擦音化されて硬口蓋歯茎無声破擦音[ʃ]となった。10世紀ごろには, 語中および語尾の後母音やムラウト音の前でもこの音変化が生じることになった。この音韻的差異による二重語には, skirt/shirt, scrub/shrub などがある。Shirt と shrub がOE 経由で, skirt はON, scrub はデンマーク語(Danish: Dan)経由である。また, この音韻的差異はオランダ語(Dutch: Du)との間でもみられ, shoal/school などの二重語が生じている。

ONはゲルマン祖語の語頭音[hw-]の氣息音[h]を保持したが、西ゲルマン語は8世紀頃高地ドイツ地方において氣息音[h]を消失し[w]になった。この変化による二重語の例として warble/whirl がある。WhirlはON 経由であるが, warble はOHG 経由で[h]を消失し, その後OF を経てOE に入った。この語頭の氣息音[h]消失はイタリック系のロマンス語にも見られるが, 古フランス語(Old French: OF)ではさらに[w]が[v]へと変化した。Boulevard/bulwak がその二重語の例で, boulevard はMDu からOF を経て, bulwak はMDu から中英語(ME)へ借入された。

25年間に及ぶデーン人支配の終焉後, しばらくしてフランスのノルマン公国のWilliamによるNorman Conquest(1066年)が起こり, ノルマン人がイギリスに定住し, 支配階級を占めることになる。このノルマン人ももとはヴァイキングであったが, フランス文化に同化しゲルマン語を捨てゲルマン語訛りのフランス語を話していた。このノルマン人の侵入は古英語の語彙及び文法に多大な影響を与え, 英語の語彙はゲルマン的色彩を薄めてイタリック系色調を濃くしていった。フランス語やラテン語の多量の語彙の借入によって古英語の多くの語彙は失われることになり, 屈折語尾の平準化が進み総合的から分析的言語へと変わっていった。

フランス語は, ラテン語起源の言語であるが, ゲルマン語起源の語彙を多くもっている。ローマ化されたケルト系ガリア人の地に, ゲルマン族が民族大移動によって侵入した。侵入してきたゲルマン族のうちフランク族が最も強力であり, 476年の西ローマ帝国最後の皇帝の廃位によってフランク族が実質的支配力をもった。しかし, フランク族は政治的には支配したが, 言語的にはガロ・ロマンス語に圧倒され, フランク語の一部の語彙や, [h]と[w]という2子音や, 一部の新しい屈折や接辞をガロ・ロマンス語に加えたに過ぎなかった。しかし, ガロ・ロマンス語はヴァイキング時代にゲルマン語起源の語彙を多く取り入れることになった。

ゲルマン族に接する古北部フランス語(Old North French: ONF)とノルマンデー公国のノルマン・フランス語(Norman French: NF)はゲルマン語音の[w]を保持した。その[w]は中央フランス語[gu]と対

応し、英語の二重語を生じる要因となった。Wild/guile, warrantry/guarrantyなどがその例である。また、英語は[w]を保持したので、フランス語の[gu]とでも二重語が生じた。Ward/guard, wise/guiseなどである。

俗ラテン語(Vulgar Latin: VL)がロマンス諸語に分化しOFになっていく頃には、[bj]は[d₃]を経て[ɟ]に変化していった。二重語 lobby/lodgeが生じた背景にこの音韻変化がある。この二重語はGmc *laubjaが語源で、OHGを経てラテン語に入る。Lobbyは[bj]をまだ保持していた中世ラテン語(Mediaeval Latin: ML)のlaubia, lobiaを経て英語に入り、lodgeはOHGを経て、[d₃][ɟ]に音変化していたOFのloge, loigeを経て英語に入った。

同じ言語から借入されても、英語に入ってから形態を変えたものもある。Ettiquette/ticketはOFのestiquettを経るが、etiquetteはOFからFを経てFの語形で英語に借入されたが、ticketはOFから廃語になったMF*etiquetを経て入る。ラテン語のqu-は300年頃から[kw]から[k]に変化し、OFではqu, q, k, c chなどの綴りが用いられていたが、借入したMEではkが当てられ*etiketとなり、その後語頭音消失によりtiketとなった。また、band/bondはONのbandを経てMEに入ってきたが、OEの[a]が[nd]の前にあるとき、MEではDerby北部、及びNottingham, Lincoln以北において非円唇母音[a/a:]になりbandに、それより南では円唇母音[ɔ/ɔ:]になりbondとなるために、二重語が生じた。

二重語の分類のうち、A)他言語の経由で生じた二重語の分類は以下の通りである*。

A)他言語の経由で生じた二重語

i)二重語のいずれもが他言語を經由しているもの

①古ノルド語経由

band / bond [None]

[band n. 'a thin strip of flexible material used to encircle and bind one object or to hold a number of objects together'](c1200)“anything with which one's body or limbs are bound, in restraint of personal liberty” ME *band, bond* < ON *band* 'tie' < Gmc **band-* 'to bind'

[bond n. 'something, such as a fetter or band, that binds or fastens things together'](c1250) “anything with which one's body or limbs are bound in restraint of personal liberty; a shackle, chain, fetter, manacle” ME *bond* (phonetic variant of BAND) < ON *band* 'tie' < Gmc **band-*

screech / shriek [Klein, 研究社]

[screech v. 'a high-pitched, strident cry'](1577)“to utter a sharp, piercing cry, as of pain or alarm” ME *skrichen, schrichen, scritch* < ON *skrakja* < Gmc **skrākjan-*

[shriek v. 'a shrill, often frantic cry'](1577)“to utter a loud sharp shrill cry” ME *schriken, shriken* < ON *skrakja* < Gmc **skrākjan-*

sleek / slick [Klein]

[sleek a. 'smooth, lustrous as if polished'](a1220)“comparative darkness, esp. that caused by interception of light” ME *slik, sliiek* (later variant from of ME *slike*) < ON *slikr* 'smooth' < Gmc **sli-*

[slick a. 'smooth, glossy, and slippery'](a1220)“smooth, glossy, sleek” ME *slike* < ON *slikr* < Gmc **sli-*

*各二重語の直後の [] は三つの辞書のうち二重語と認定している辞書をあらわし、[None]は三辞書とも認定していないことを意味する。また、各語の直後の数字はOEDにおける初出の年数を表し数字の前のaはbefore, cはaboutを意味し、それに続く“ ”は初出の語義である。またくは借入を、' 'は各語の語義をあらわす。なお、紙面の都合により次の二重語の掲載を省く。[i) robber/rober, guardian/warden, ii) nay/no, snivel/snuffle]

warble / whirl [None]

[warble v. 'to sing with trill, runs, or other melodic embellishments'](13..) "to proclaim by flourish of trumpets" ME *werbelen* < ONF *werbler* (=OF *guerbler*) 'to sing with trills and quavers' < OHG *webel* < Gmc **hwerban* 'to turn'

[whirl v. 'to revolve rapidly about a center or an axis'](C1290) "to move in a circle or similar curve, to circle, circulate" ME *whirlen* < ON *hvirfla* 'to whirl' < Gmc **hwerban*

② オランダ語経由

boulevard / bulwark [None]

[boulevard n. 'a broad city street, often tree-lined and landscaped'](1769) "a broad street, promenade, or walk, planted with rows of trees" < F *boulevard*, 'work of fortification' < OF *bollevart* 'rampart converted to a promenade' < MDu *bolwerc* 'bulwark' < Gmc **bul-*

[bulwark n. 'a wall or embankment raised as a defensive fortification'](c1418) "a substantial defensive work of earth, or other material; a rampart, a fortification" ME *bulwerk* < MDu *bolwerc* < Gmc **bul-*

snack / snatch [None]

[snack v. 'to eat a hurried or light meal'](13..) "to bite or snap; to utter or exchange sharp, anapping words or remarks" ME *snaken* < MDu *snacken* 'to seize, snatch' < Gmc **snak-*

[snatch v. 'to grasp or seize hastily, eagerly, or suddenly'](a1225) "to make a sudden snap or bit" ME *snacchen, snecchen* < MDu *snacken* < Gmc **snak-*

track / trek [None]

[track n. 'a mark succession of marks left by something that has passed'](1470-85) "the mark, or series of marks, left by the passage of anything" ME *trak* < MF *trac* < OF *track* < Gmc

[trek n. 'a long, difficult journey'](1849) "journeying or travel by ax-wagon" Afr. *trek* 'travel by ox wagon' < Du *trek* ← *trekken* 'to travel' < MDu *trekken* (rel to. OF *trac*) 'to pull' < Gmc

③ ドイツ語経由

furnish / veneer [None]

[furnish v. 'to equip with what is needed, especially to provide furniture'](c1477) "to accomplish, complete, fulfil" ME *furnis(s)he, furnys(s)he* < OF *forniss-*, *furniss-* (presp. stem of *fornir,ournir*) 'to accomplish, supply' (F *fournir*) < OHG *frumjan* < Gmc **frumjan* 'to further'

[veneer v. 'to overlay with a thin layer of a fine or decorative material'](1728) "to apply or fix as veneering" Mod E *veneer, veneir* (alteration of **faneering*) < G *furnieren* 'to furnish, veneer' < F *fournir* 'to supply, furnish' < OF *furnir* < OHG *frumjan* 'to provide, further' < Gmc **frumjan*

④ フランス語経由

④-1 古フランス語経由

espy / spy [None]

[espy v. 'to glimpse'](c1330) † "to act as a spy upon; to watch" ME *espian* < OF *espier* 'to watch' (F *épier*) < Frank/OHG **spehōn* 'to look out for' < Gmc **spehōn* 'to examine closely'

[spy v. 'to observe secretly with hostile intent'](c1250) "to watch in a secret or stealthy manner" ME *spian, espian* < OF *espier* 'to spy' < Frank/OHG **spehōn* < Gmc **spehōn*

guaranty / warranty [Klein, 研究社, Barnhart]

[guaranty n. 'an agreement by which one person assumes the responsibility of assuring payment or fulfillment of another's debts or obligations'](1592) "the action of an act of securing,

warranting, or guaranteeing" Early Mod E *garranty, garrantie, guarranty* < OF *guarantie, garantie* < Frank **warand* 'warrant' < Gmc **war-* 'to cover'

[warranty n. 'official authorization, sanction'](1388) "an act of warranting" ME < ONF *warantie* (=OF *guarantie, garantie*) < Frank **warand* 'warrant' < Gmc **war-*
guile / wile [Klein, 研究社, Barnhart]

[guile n. 'treacherous cunning'](a1225) "insidious cunning, deceit, treachery" ME *guile* < OF *guile* < Frank **wigila* 'sorcery, witchcraft' < Gmc **wihl-* 'wile'

[wile n. 'a stratagem or trick intended to deceive or ensnare'](1154) "a crafty, cunning, or deceitful trick; a sly, insidious, or underhand artifice" ME *wile* < ONF **wile* (=OF *guile*) < Frank **wigila* < Gmc **wihl-*

④-2 古フランス語 < イタリア語經由

salon / saloon [None]

[salon n. 'a large room used for receiving and entertaining guests'](1699) "a large and lofty apartment serving as one of the principal reception rooms in a palace or other great house" < F *salon* < It *salone* 'hall, room' < Gmc **sal-* 'room'

[saloon n. 'a place where alcoholic drinks are sold and drunk'](1728) "saloon" Mod E *saloon* (anglicized from of SALON) < F *salon* < It *salone* < Gmc **sal-*

attach / attack [Klein, 研究社]

[attach v. 'to fasten'](1362) "to arrest, lay hold of, seize" ME *attachen* < OF *attachier, atachier* 'to tack or fasten' (alteration of *estachier*, from *estache* 'stake') < Gmc **stak-*

[attack v. 'to set upon with violent force'](1600) "to fasten or fall upon with force or arms" Mod E *attaque, attaque* < F *attaquer* < It *attaccare* 'to attach, join' < OIt **esutaccare* < Gmc **stak-*

④-3 古フランス語 < オランダ語

chuck / shock [None]

[chuck v. 'to throw or toss'](1583) "to give a gentle blow under the chin, so as to make the mouth straike together" Early Mod E *chock* < F *choquer* 'to shock' < Du *schokken* < Gmc

[shock v. 'to come into contact violently, as in battle'](1576) "to come into violent contact, to collide, clash together, esp. to encounter in the shock of battle" ME *schokken* < (M)F *choquer* < Du *schokken* < Gmc

etiquette / ticket [Klein]

[etiquette n. 'the practices and forms prescribed by social convention or by authority'](1750) "the prescribed ceremonial of a court" < F *étiquette* < OF *estiquette* 'label, ticket' ← *estiquier, estiquer* 'to stick on, attach' < MDu *steken, stikken* 'to stick' < Gmc **steken* 'to stick'

[ticket n. 'a paper slip or card indicating that its holder has paid for or is entitled to a specified service, right, or consideration'](1528) "a short written notice or document; a memorandum, a note, a billet" ME *tiket* (aphetic form of **etiket*) < MF **etiquet* 'a little note' < OF *estiquette* < MDu *steken, stikken* < Gmc **steken*

hale / haul [研究社]

[hale v. 'to compel to go'](13..) "to draw or pull" ME *halen, halien* < OF *haler* 'to haul' < ODu *halen* < Gmc **halōn* 'to call'

[haul v. 'to pull or drag forcibly'](1581) "to pull or draw with force or violence" ME *hauen* (a different phonetic development of ME *halen*) < OF *haler* < ODu *halen* < Gmc **halōn* 'to call'

⑤ ラテン語經由

lobby / lodge [Klein, 研究社]

[lobby n. 'a hall, or waiting room at or near the entrance to a building'](1553)†“a covered walk, cloister(in a monastery)” < ML *laubia*, *lobia*, *lobium* ‘monastic cloister’ < OHG **laubja* ‘sheltered or shady place, booth, hut’ < Gmc **laubja* ‘shelter of foliage’

[lodge n. 'a cottage or cabin, used as a temporary abode or shelter'](1290) “a small house or dwelling, esp. a temporary one; a hut or booth” ME *loge*, *logge* < OF *loge*, *loige* ‘harbour, summerhouse, hut’ < OHG **laubja* < Gmc **laubja*

ii) 二重語のうち一語が他言語の経由であり他方が古英語からのもの

① 古ノルド語経由

bleach / bleak [None]

[bleach v. 'to remove the color from, as by means of chemical agents or sunlight'](c1200) “to whiten by washing and exposure to sunlight, or by chemical processes” ME *blechen* < OE *blæcan* ‘to bleach’ < Gmc **blaiċjan* ← **blaiċ-* ‘shining, white, pale’

[bleak a. 'gloomy and somber'](1566)† “pale, pallid, wan” ME *bleke* < ON *bleikr* ‘pale’ < Gmc **blaiċ-*

drag / draw [None]

[drag v. 'to pull along with difficulty or effort'](c1440) “to draw or pull” ME *drahen*, *drawen* < ON *drage* ‘to draw’ < Gmc **dragan* ‘to draw, drag on the ground’

[draw v. 'to cause to move after or toward one by applying continuous force'](c950) “to cause to move toward oneself by the application of force” ME *drahen*, *drawen* < OE *dragan* ‘to draw, pull’ < Gmc **dragan*

fleck / flitch [None]

[fleck n. 'spot, freckle'](1598) “a blemish, freckle” < ON *flekk* ‘piece of skin or flesh; spot’ < Gmc **fliċkja*

[flitch n. 'bacon'](a700) “the side of bacon” ME *flicche* < OE *flicce* ‘side of hog’ < Gmc **fliċkja*

gnaw / nag [None]

[gnaw v. 'to bite, chew on, or erode with the teeth'](a1000) “to bite persistently so as to injure it or remove portions of it” ME *gnawen* < OE *gnagan* ‘to gnaw, bite’ < Gmc **gnagan* ‘to gnaw’

[nag v. 'to worry persistently'](1825) “to gnaw, to nibble” < Swed/Norw *naga* ‘to gnaw’ < ON *gnaga* ‘to gnaw’ < Gmc **gnagan*

raise / rear [None]

[raise v. 'to move to a higher position; to elevate'](a1240) “to set upright” ME *reisen*, *raisen* < ON *reisa* ‘to raise’ < Gmc **raizjan* ‘to raise’

[rear v. 'to care for during the early stages of life'](a1000) “to set up on end” ME *reran* < OE *rcéran* ‘to raise’ < Gmc **raizjan*

scuffle / shove [None]

[scuffle v. 'to fight or struggle confusedly at close quarters'](1590) “to struggle confusedly together or with another or others” Early Mod E *skufle* < ON *skūfa* ‘to push’ < Gmc **skeuban* ‘to shove’

[shove v. 'to push forward or along'](a900) “to thrust away with violence” ME *schuven* < OE *scūfan* ‘to shove’ < Gmc **skuban*

shirt / skirt [Klein, 研究社, Barnhart]

[shirt n. 'a garment for the upper part of the body, typically having a collar, sleeves, and front

opening'] (a1000) "an undergarment for the upper part of the body, made of linen, calico, flannel, silk or other" ME *schirte, shirte, sherte* < OE *scyrte* 'apron, shirt, tunic' < Gmc **skurtaz*

[skirt n. 'the part of a garment, such as a dress or coat, that hangs freely from the waist down'] (a1300) "the lower part of a woman's dress or gown, covering the person from the waist downwards" ME *skirte, skykrte* < ON *skyrta* 'shirt, skirt' < Gmc **skurtaz*

② オランダ語経由

brown / bruin [None]

[brown a. 'any of a group of colors between red and yellow in hue that are medium to low in lightness and low to moderate in saturation'] (a1000) "dusky, dark" ME *broun* < OE *brún* 'brown' < Gmc **brūnaz* 'bright, brown'

[bruin n. 'a bear'] (1481) "that name of the Bear in *Reynard the Fox*" ME *bruin* < (M)Du *bruin, bruun* 'brown, name of the bear in MDu version of the fable' < Gmc **brūnaz*

heathen / hoyden [None]

[heathen n. 'the unconverted'] (971) "applied to persons or races whose religion is neither Christian, Jewish, nor Muslim" ME *hethen* < OE *hæðen* 'savage ← one inhabiting uncultivated land' < Gmc **haithinaz* 'a cultivated land'

[hoyden n. 'a high-spirited, boisterous, or saucy girl'] (1593) † "a rude, ignorant, or awkward fellow" Early Mod E *hoydon* < Du *heiden* 'heathen, boor' < MDu *heiden* 'heathen' < Gmc **haithinaz*

lair / leaguer [None]

[lair n. 'the den or dwelling of a wild animal'] (c893) † "the action of fact of lying" ME *lezer, leir* < OE *leger* 'lair' < Gmc **legraz* 'bed'

[leaguer n. 'the camp especially of a besieging army'] (1577) "a military camp, esp. one engaged in a siege; an investing force" Mod E *legher, legar, leagure* < Du *leger* 'lair, camp' < Gmc **legraz*

school / shoal [研究社]

[school n. 'a large group of aquatic animals, especially fish, swimming together'] (c1400) "a shoal or large number of fish, porpoises, whales, etc. swimming together whilst feeding or migrating) ME *scole* < MDu *schōle* 'troop, multitude' < Gmc **skulō* 'division'

[shoal n. 'a large group; a crowd'] (1579) "a large number of fish, porpoises, seals, whales, etc. swimming together" ME *shoale, shole* < OE *scolu, sceolu* 'troop, crowd' < Gmc **skulō*

wain / wagon [Klein, Barnhart]

[wain n. 'a large open farm wagon'] (c725) "a large open vehicle, drawn by horses or oxen, for carrying heavy loads, esp. of agricultural produce" ME *wain* < OE *wægen, wægn* 'carriage, wagon' < Gmc **wagnaz* 'vehicle'

[wagon n. 'a four-wheeled, usually horse-drawn vehicle with a large rectangular body, used for transporting loads'] (1523) "a strong four-wheeled vehicle designed for the transport of heavy good" Early Mod. E *wagan, waghen* < (M)Du *wagen* 'a wheeled vehicle' < Gmc **wagnaz*

③ デンマーク語経由

scrub / shrub [None]

[scrub n. 'a straggly, stunted tree or shrub'] (1398) "a low stunted tree" ME < Dan *skrub* 'brushwood' < Gmc **skrub-* 'rough plant'

[shrub n. 'a woody plant of relatively low height, having several stems arising from the base and lacking a single trunk'] (972) "a woody plant smaller than a tree" ME *schrubbe, schrub,*

shrub < OE *scrybb* 'shrubbery, underwood' < Gmc **skrub-*

④ フランス語経由

garden / yard [研究社]

[*garden* n. 'a lot of land used for the cultivation of flowers, vegetables, herbs, or fruit'](13..)

"an enclosed piece of ground devoted to the cultivation of flowers, fruit, or vegetables" ME

gardin < ONF *gardin* (=OF *jardin*) < Frank **gardo* < Gmc **gardaz*

[*yard* n. 'a tract of ground adjacent to, surrounding, or surrounded by a building'](a1000) "a

comparatively small uncultivated area attached to a house or other building or enclosed by it"

ME *yard, yerd, yerde* < OE *geard* 'enclosure, a piece of land' < Frank **gardo* < Gmc

**gardaz*

guard / ward [Klein, 研究社, Barnhart]

[*guard* v. 'to protect from harm by or as if by watching'](1583) "to keep in safe from injury

or attack" ME *garden* < OF *guarder* (< VL **wardāre*) < Gmc **warōn, wardōn*

[*ward* v. 'to guard, protect'](a1035) "to guard, stand guard over" ME *wardien* < OE

weardian 'to keep, guard' < Gmc **warōn, wardōn*

guise / wise [Klein, 研究社]

[*guise* n. 'outward appearance or aspect'](13..) + "manner, method, way" ME *guise, gise* < (O)

F *guise* < Gmc **wissōn* 'appearance'

[*wise* n. 'method or manner of doing; way'](971) + "manner, mode, fashion, style" ME *wise* <

OE *wise* 'manner, mode, condition' < Gmc **wissōn*

paddock / park [研究社]

[*paddock* n. 'a fenced area, usually near a stable, used chiefly for gazing horses'](a700) + "a

fence, or hurdles, with which a space is enclosed" ME *parroc* < OE *pearroc* 'fold, en-

closure' < ML *parricus* < Gmc **parrukaz*

[*park* n. 'an area of land set aside for public use'](c1260) "an enclosed tract of land held by

royal grant or prescription for keeping beasts of the chase" ME *parc* < OF *parc* 'preserve for

beasts of the chase' < ML *parricus* < Gmc **parrukaz*

(次号につづく)

注

- 1) ゲルマン系二重語の *skirt/shirt* について, 日本人学生によく使われている国内外の英語学習事典 21 種類を調べてみると, 二重語の記載がある辞書はなく, 同一語源または同系語の記載をしているもの 4 辞書, 縁語の記載があるもの 1 種類であった。
- 2) 安達一美, 『英語語彙におけるイタリック系二重語(1)』武庫川女子大学紀要, 42, p. 1(1994)
- 3) 同上『英語語彙におけるイタリック系二重語(1)~(3)』武庫川女子大学紀要, 42-44(1994-96)
- 4) Skeat, W. W., *An Etymological Dictionary of English Language*, Clarendon Press, Oxford, pp. 748-51(1978)
- 5) Allen, E. A., "English Doublets" *The Modern Language Association of America*, Vol. XXIII, pp. 188-239(1908)
- 6) Klein, E., *A Comprehensive Etymological Dictionary of the English Language*, Elsevier, New York(1971), Barnhart, R. K., *The Barnhart Dictionary of English Etymology*, Wilson, New York(1988)

参考文献

- Allen, E. A., "English Doublets" *The Modern Language Association of America*, Vol. XXIII, pp. 188-239 (1908)
- Barnhart, R. K., *The Barnhart Dictionary of English Etymology*, Wilson, New York (1988)
- Baugh, A. & T. Cable, *A History of the English Language* 3rd. ed., Prentice-Hall, New Jersey (1976)
- Klein, E., *A Comprehensive Etymological Dictionary of the English Language*, Elsevir, New York (1971)
- Partridge, A. C., *A Companion to Old and Middle English Studies*, Andre Deutsch, London (1982)
- Skeat, W. W., *An Etymological Dictionary of English Language*, Clarendon Press, Oxford, pp. 748-51 (1978)
- Simpson, J. A. & E. S. C. Weiner, *The Oxford English Dictionary* 2nd. ed., Clarendon, Oxford (1989)
- Watkins, C., *The American Heritage Dictionary of Indo-European Roots*, Houghton Mifflin, Boston (1985)
- 市川三喜・高津春繁, 『世界言語学概説』, 研究社, 東京 (1969)
- 伊藤太吾, 『ロマンス言語学入門』, 大阪外国語大学出版, 大阪 (1994)
- 小野茂, 中尾俊夫, 『英語史 I』, 大修館, 東京 (1991)
- 中尾俊夫, 『英語史 II』, 大修館, 東京 (1991)
- , 『音韻史』, 大修館, 東京 (1985)
- 片岡孝三郎, 『ロマンス語比較文法』, 朝日出版, 東京 (1982)
- , 『ロマンス語歴史文法』, 朝日出版, 東京 (1982)
- , 『ロマンス語言語学』, 朝日出版, 東京 (1982)
- 小稲義男他, 『新英和大辞典』5 版, 研究社, 東京 (1980)
- シェーラー, M., 『英語語彙の歴史と構造』, 南雲堂, 東京 (1990)
- バケ, P., (森本英夫他訳) 『英語の語彙』, 白水社, 東京 (1985)
- 浜崎長寿, 『ゲルマン語の話』大学書林, 東京 (1976)
- ブルナー, K., (松浪 有他訳) 『英語発達史』, 大修館, 東京 (1973)
- ヴァセーン, E., (菅原邦城訳) 『北欧の言語』東海大学出版, 東京 (1984)
- 藤代幸一他, 『中世低地ドイツ語』大学書林, 東京 (1982)
- ホープ, M. K., (大高順雄他訳) 『アングロノルマン語』研究社, 東京 (1983)
- 前島儀一郎, 『英仏比較文法』, 大学書林, 東京 (1986)
- , 『英仏比較文法』, 大学書林, 東京 (1987)
- 森田貞雄, 『アイスランド語文法』, 大学書林, 東京 (1982)